

テラヘルツテクノロジーフォーラム通信

Vol.7, No.1 (2009 年度)

「フォーラムで価値創造を」

テラヘルツテクノロジーフォーラム企画委員長
大阪大学 永妻忠夫

2009年9月に韓国釜山で開催された国際会議 IRMMW-THz2009 では、42 カ国から 550 を超える発表件数がありました。加えてわが国からは 122 件と世界最多の貢献を行い、テラヘルツ技術分野の世界的リーダーとわが国の研究レベルの高さを印象づけるものでした。

20 世紀に始まる人類の電磁波開拓(可視光以外)の歴史において、私たちは様々な光波と電波を上手に料理し、生きるためにあるいは生活の質を高めるために利用してきました。したがって、この 21 世紀に残された最後の電磁波領域であるテラヘルツ波は、きっと神様が私たちに残してくれた宝物に違いない・・・、おそらく最近のテラヘルツフィーバーの背景にはこのような期待感もあるのだらうと思います。

テラヘルツテクノロジーフォーラムは 6 年前にこの動向を予見し、わが国がテラヘルツ波の産業利用において世界のトップに立つことを目指して設立されました。このフォーラム通信も本号で13号目を迎えますが、今こそ、フォーラムの真価を発揮する時です。

さて、皆さんはテラヘルツ技術を次の4つの視点で捉えたとき、明確な答えをいくつ持っておられるでしょうか。
1) 単なる学術的な興味あるいは学术界でのニーズでなく、テラヘルツ技術が応える具体的な社会の「ニーズ:N」は何か(顧客は誰か)、2) この顧客ニーズを満たす技術として、テラヘルツ技術は革新的な「アプローチ:A」を提供できるか、3) このアプローチから顧客は、費用対効果を熟慮した上で、どのような「利益(ベネフィット:B)」を得ることができるか、4) テラヘルツ技術が提供するものは、同様なニーズを想定した競合技術・代替案(「コンペティタ:C」)に比べていかに優れているか。これら4つの問いかけは、「イノベーションとは市場において新たな顧客価値を創造し提供する過程である」とするカーチス・カールソン(SRI インターナショナル)が、その著書「イノベーション」(Crown Business 2006 年 8 月)において述べている「価値創造」のための青写真作りの構成要素(NABC)です。

わずか4つの要素ですが、これらすべてを満たそうとするとなかなかの難題であることに気づきます。本フォーラムは学会ではありません。非専門家の方にも気軽にご参加いただき、例えば、上記の4つの要素をオープンに議論するための「社交サロン(Watering Hole: 動物たちの水のみ場が語源)」として活用してはいかがでしょうか。今後もテラヘルツテクノロジーフォーラムは、産官学が一体となってテラヘルツ波の価値創造を行なうための場を提供していきたいと思ひます。

